

海洋学会における長期ロードマップ作成についての提案 A proposition on creating long-term roadmap in OSJ

河宮 未知生^{1*}

KAWAMIYA, Michio^{1*}

¹ 河宮未知生

¹ Michio Kawamiya

地球惑星科学連合における「大型研究計画マスタープラン」作成のプロセスから、海洋学会でも5 - 10年のスケールで中長期的な目標の策定を行っておくことの必要性が指摘されており、海洋学会と関連の深い気象学会でもそうした議論が交わされている。また筆者が関与する京速計算機の後継機に関する議論においても、大型計算機を利用する各分野の10-15年程度のロードマップに基づいて後継機の仕様が議論されるなど、研究者コミュニティである程度のコンセンサスをもった長期目標が多方面で利用されるようになってきている。こうした傾向は、単一研究機関で定期的に更新される「中期目標」などとは独立に、学会としての目標設定が焦眉の課題であることを示している。ただし、海洋学会のような研究者の自主的に組織した集団で、多大な労力を投入しながらコンセンサスを得て目標設定を行うプロセスをどの程度、どのように維持していくかは大きな問題と言える。講演では、京速計算機後継機におけるロードマップや、筆者が所属する海洋研究開発機構の中期目標などを参考にしながら、海洋学会が取り組むべき目標設定や制度設計について議論したい。

キーワード: マスタープラン, 大型研究, ロードマップ, 海洋学会

Keywords: Master plan, Large-scale program, roadmap, Oceanographic Society of Japan